

第二課

軍事極秘

電報

昭和一九、九、二八

九月二十八日八時 (電報班受付)

旭部隊參謀長

通電先 次長 (次官)

旭放送電第一二三號 (電註、傍受班翻譯)

九月二十七日

一 光竝ニ岩ハ警戒陣地ヲ奪取シ主力ヲ以テ攻撃前進ヲ開始セリ (光、岩報)

ニ 江華竝ニ水明前方山部隊搜索部隊方面ニ敵小部隊ノ蠢動活潑ナリ
土民報ニ依レテ十七日迄ニ道縣一江華道ヲ南下セル敵約一萬ニ
シテ水口 (江華東南) 二語不明一糶ニハ尙有力ナル部隊アル
モソノ如シ

三 (此ノ項全部脱不明)

四 開部隊ハ一部ヲ以テ達磨山 (長沙北四〇糶) 一語不明中

(終)

669

2065

2305

第一次大戦前ニ於テハ、穀物輸出先ハ専ラ西歐ノ工業國ニテ、露
 西亞内ノ他ノ地域ニ移出サルルモノハ極メテ僅少デアツタノニ反
 シ、戦後蘇聯政府ハ國內ニ於テ食糧ニアウタルキトシテ確立第一
 主義ノ工業化政策ニ伴フ人口ノ都市ヘノ急速ナル集中、人口ノ一
 般的増加等ニ依リ、蘇聯内北部及中部地方ニ於ケル食糧ノ供給不
 足ヲ充足スル爲メ蘇聯内此ノ地方ヘ移出サレ、其ノ對西歐輸出ハ殆
 シト杜絶等ノ状態デアツタ。蘇聯政府ガ國內工業化ノ農業
 機械化ノ爲メ機械其他ノ重要生産手段ヲ輸入スル必要ニ迫ラレ穀
 物ノ強行輸出ヲ行ツタ一九三〇年度ノ如キハ寧ロ例外デアツタ。
 一九三七年度ハ約四六〇萬屯ノ穀物ガ鐵道及水路ニ依リ蘇聯内ノ他
 ノ地域ニ移出サレタガ、最近半年度ニ於テ穀物生産約二、五〇〇
 萬屯中過剩高ク約四五〇萬噸ニシテ其ノ中「パン」用穀物二一三
 萬噸、飼料穀物二三〇萬噸ガ移出サレテ居ルモノト推算サレル。
 註、但シ第一次大戦後ノ輸出杜絶ノ理由トシテハ農産物工業品間

第三課

日誌用

日誌用

極秘

傍受電報

昭和一九、九、二九

九二八、一五一〇發
九二九、〇六四〇著
九月二十九日八時五十分（電報班受付）

旭 部 隊 參 謀 長

通電先 次長（次官）

旭放送第一二三號

「光」部隊ハ昨二十七日十七時迄ニ「寶慶」城ヲ完全ニ攻略セリ

兩支隊ノ戦況亦順調ナリ

「岩」部隊二十七日正午頃迄ニ戦列部隊ノ大半ノ渡河ヲ完了、所命

ノ線ニ向ヒ突進セリ

第三〇軍二十日ハ「道縣」南方地區ニ於テ「瀟水」ヲ渡河西走セリ

（裏へ）

670

80

2307

第二六軍ハ二十五日「道縣」東南「一五籽」附近「瀟水」東岸地區ニ築
結シアリタリ

四南集團方面ニアリタル第六四軍第一五六師、第一五九師ノ兩師（各
二箇團）ハ「平樂」附近ヲ轉進中ナルモノノ如シ

又「定岡隘」（「龍虎關」西二四籽）ニハ「桂林」ヨリ急進セル一
個團二十六日到著セル外別ニ「定岡隘」一「栗大衝」（東南一七籽）
間ニハ「恭城縣」自衛團一箇團アルモノノ如シ

（終）

極秘親展

2308 671

5088

第二報

軍事機密

日天用

傍受電報

昭和一九、九、三〇

九二九一〇一〇發
二〇四〇著
九二九一二〇〇受付
二二〇〇提出

九月三十日八時三十分(電報班受付)

次長宛

旭部隊參謀長

旭放送第一二四號

九月二十九日

一 隼部隊ハ二十八日夜常寧ヲ攻撃セリ

二 二十七日第九三軍軍部ハ興安、第四六軍軍部ハ桂林ニ在リ

三 栗木樹(龍虎關西北九杆)ニ自衛團一箇團、定岡隘(西北一八杆)

ニ敵一箇團、劉家坪(北々東二〇杆)ニ自衛團二箇營アルモノ

(裏へ)

如シ

又廣部隊ノ一部ハ二十四日麻子渡（全縣西南一五軒）ニ於テ約

五〇ノ自衛團ヲ掃蕩セリ

四道縣東方及東南方ニ在ル第二六軍其ノ他ハ二十六日藍山（道縣東

南五〇軒）一永明附近ヲ經テ桂林方面ニ前進スベク命令セラレタ

ルモノノ如シ

又南築團ハ既ニ梧州ヲ攻略シ丹竹附近ニ進出中

（終）

日 月

至急電報

次長宛

旭部隊參謀長

昭和一九三〇

九二九。八〇。四〇。發九二九。一五。五。受付
二三四の提出

旭參電第八三七號(電註一部未著ナルモ取敢ズ配布ス)

九月二十八日戰況

光部隊主力ハ二十七日右翼隊ヲ以テ十三時寶慶城

東關ニ左翼隊ヲ以テ十一時三十分西關ニ夫々突入シテ

完全ニ攻略セリ

岩部隊ノ二十七日夕挺進セシメタル各部隊ハ大ナル抵抗ヲ

受クルコトナク二十四時長陽鋪ニ到着ス 軍ハ寶慶城

戰ノ目的ヲ達成セルヲ以テ二十八日十二時岩部隊ヲ以テ

(電註主任課連絡濟)

以下未著

第十六號ノ二

吾々は中央政府に對して一筆某頭文電を
 送し全國民の凡ゆる抗日ハルチヤン運動、凡ゆる
 地方政府及びゆる長、兼機關の代表に呼かけ
 たる「と」を請ふたどるはれ、王澤木は最近三
 つの困難が諸人の關心の焦點を占めてゐると
 言ふ。「國家の民主的諸機關の強化」もその
 一つである。林道南の参事會での
 演説も中央政府の機關の強化を主張し、共に
 發表された。

國
 函

軍事秘密

第二課
日誌用

電報

一〇二一八四五發
三一五二五著
一〇四〇八二〇提出
昭和二九、一〇、四
三六一六〇五受付
2313

參考 次長、支線、集、南

通臂先 統

加參電第九一八號

健部隊ハ一日未明興安ヲ攻略セリ

戰果 俘虜六〇〇、迫撃砲五、其ノ他調査中ナリ

健部隊ハ更ニ上河口南方ニ在ル第一四〇師ヲ攻襲スベク勸進中

廣部隊ハ一日未明興安ヲ占領シ搜索據點ヲ石炭坪

崔家(興安南一〇軒)ニ推進セリ

極秘親展
極秘(軒)

(終)

675

又スアナトキシニンヲ混合接種シアリ、佛軍ハ「ヤチブスー」「バ
 ラー」A B 混合接種液ニ「テタヌス」「アチトキシニン」「ガスブラ
 シンドアナトキシニン」及「ジフテリーアナトキシニン」ヲ混合使用
 シアリタリ、皇軍ニ於テモ此等各種混合接種液ノ研究實施
 ラ促進シ過多ナル豫防接種ノ單一化ヲ圖ルヲ有利ナリト認ム
 六四版骨折患者ニ骨髓内支柱法ヲ今向盛ニ實施シツツアリ、之
 ガ短所タリシ脂肪栓塞ハ骨髓内ニ打込ム支柱釘ノ形狀改料ニ依
 リ著シク減少セリト之ニ依リ來ノ如キ長期ニ互ル副木ノ裝用ヲ
 省略或ハ短縮シ關節ノ離合ヲ來スニナク骨折端ノ整復ヲ正シ
 ク且癒合ヲ速カナラシムト稱シ居レリ

手栞

至急電報

1040350發

昭和一九、一〇、四

1041017受付

旭部隊參謀長

目録

通電先 次長、支、統、軍、南

旭參電第九三六號

十月二日ノ戦況

- 一 岩ハ寶慶西方芷江左岸地區ニ有力ナル殘敵ヲ各所ニ擊推中
- ニ 廣ハ歩兵二大隊ヲ以テ一日興安ヲ奪取セリ、爾後各々一大隊搜索
- 隊ヲ以テ（興安西一四軒）竝ニ捧山郷（興安東側南東一〇軒）附
- 近高地確保ヲ企圖ス
- 三 劍ハ三十日鵝湖嶺一帯ヲ、一日常寧縣廳ヲ攻略セリ、爾後引續キ
- 板橋（常寧南々西一四軒）周邊第一四〇師ヲ攻撃中ナリ
- 四 興安及其ノ南方地區ニアリシ敵ハ新編第八師ノ約二〇〇〇ナリ

（終）

第二課

日誌用

軍事機密

至急電報

102400發 102000受付
共ニヤヤヤ 102000五提出

昭和一九四〇年六月

旭 部 隊 長

参 考 次長、文總、軍

連電先 統

旭参電第九七四號

軍ハ貴慶及常寧力取作戦ヲ完了セルヲ以テ光部隊ハ郝陽西方地
區健部隊ハ衡陽西南方地區ニ集結シ逸カニ整備ヲ盛ヘ軍主力方
面ニ追及セシムル如ク處置スルト共ニ湖南省、湖北省境ノ線以
東ノ地區ヲ逐次整備態勢ニ移行スル爲若及堤部隊ヲシテ後方要

677

2316

68

域ヲ確保整備ニ任ゼシム

(1) 堤部隊(太田支隊復歸)配備ノ概要

常寧、白水市、祁陽、永州、上洞港(永州南四〇軒)東安、

蘆洪司、衡陽(含△飛行場)松柏附近ヲ確保スルト共ニ湘桂

鐵道ヲ警備ス

116

(2) 岩部隊配備ノ概要

永豐、洪橋、花園及其ノ西北地區九公橋、塘尾頭(新寧東北

方約四〇軒)附近ヲ確保ス

(8) 來陽ハ植田部隊之ヲ確保ス

(終)

678

2317

軍事機密

第二課

同誌用

電報

昭和一九二〇年 兵總檢
三月〇〇發 三〇五五受
一九四〇春 一〇八 三二四〇點

旭參電第九六五號

兵站總監部參謀長 宛

旭部隊參謀長

「ト」號作戰後方旬報（九月狀況報告）

一、送力配置及運行狀況（送日量）

(1) 隨隊岳州長沙間一八中隊（岳州發送日量三五應）

長沙「易俗河」間四中隊（三〇應）

易俗河 中路鋪間六中隊（七〇應）

中齊鋪 店門前間八中隊（三五應）

店門前 衡陽間六中隊（五五應）

衡陽 祁陽間六中隊（二〇應）

祁陽 零陵間四中隊（運行準備中）

零陵 全縣間四（運行準備中）

(2) 水路岳州發送量約三〇〇〇應（日量約三〇〇應）

679

2318

易俗河到署費七七三應（日費約八〇應）

(8) 餉道 湘潭發送費三三〇應（二十六日ヨリ還行日費約六五應）

衡陽 發送費約三四應（一還行）

三、九月三十日衡陽並二同地以西地區ニ於ケル軍需品集積概況（單位應）

(1) 衡陽

彈藥四一四、兵器器材一三一、自動車燃料一八九、戰車燃料三〇
部品四九、禮袜一三二、被服七二、物品三六、衛生材料七一、歐
醫資材一三九、計一三一一

(2) 衡陽以西

彈藥一七二、戰車燃料一五、自動車燃料四六、禮袜八〇、被服物
品八四、其ノ他五八、歐醫資材九〇、
計 五四五（前回報告ノ分ヲ含ム）

通電先 兵站總監部參謀長、支總、統

配布先 第十課、軍務課、歐醫課、野兵長、野航兵長、野經長、野

衛長、第二課

（終）

読用

第二課

三急電報

IRIKI 100 發

IRIKI 100 受付

昭和一九、一〇、二〇

滬 部 隊 參 謀 長

次長、總長（吳口）、副、參

滬 部 隊 參 謀 長

旭 部 隊 第一一五號（電註） 一部未着ナルモ取取ズ配布ス

一 早ハ逐次兵力ヲ推進シ爾後ノ作戰準備ヲ促進セシガ爲 滬陽 永州

間ニ集積中ナリ

尤部隊ヲ逐次道縣附近ニ推進スベク命ジ尤部隊歩兵第三大隊ヲ

軒ノ部隊ヲ十六日永州附近出發道縣ニ先遣

（裏へ）

681

2320

（電註、以下一連未着）

龜川西方山地西側附近ニ進出シテ程平[?]地ノ敵情地形ヲ搜索セ

ント企圖シ昨十五日ヨリ有力ナル一部ヲ以テ老茶亭附近ヨリ行

切ヲ起シ其ノ先頭大隊ハ平[?]地ニ於テ富面ノ敵ヲ擊破シツツ同

夕刻松江口（大浴江口西西北九村）ニ進出セリ

四 第九三軍軍部及新編第八師師部ハ天ニ黎家[?]北[?]四[?]村[?]多[?]口[?]附近[?]新

編第八六五師各團ハ夫々小浴口（大浴江鎮南四村）附近隘路[?]口

ニ陣地ヲ占領シアリ（俘虜報備度甲）大浴江鎮西方百家村ノ臺

地一帯ニ總數七八〇〇山砲一二、迫撃砲二ヲ有スル約一箇團

ノ敵陣地ヲ占領シアリ

（終）

第二課

日

至急電報

昭和一九、二〇、二一
二〇二〇〇〇發
一〇二〇〇〇受付
一〇二〇〇〇提出

旭部隊參謀長

參考 次長、支總、南、軍

通電先 統

旭參電第一六四號（電註、通信崩レノ爲遲延）

軍ハ十月十九日二十日饒花壇ニ兵團長ヲ會同シ次期作戰ニ關シ内示ス

ルト共ニ左記要旨ノ展開命令ヲ下達セラレタリ

一 針ノ歩兵四大隊、砲兵一大隊ハ全縣一桂林道ニ沿フ地區ヨリ司門

前（興安西二〇軒）一中洞（西、西北方二〇軒）附近ヲ經テ十一月二

日迄ニ河口西側隘路口附近ニ進出シ桂林西南側地區ヘノ作戰ヲ準備ス

ニ廣部隊ハ概ネ現態勢ヲ以テ桂林北側地區ニ向ヒ作戰ヲ準備ス

官部隊ハ十月二十三日集中地ヲ出發、三十一日迄ニ概ネ興安附近湘

江右岸地區ヨリ高田場附近地區ニ兵力ヲ推進、桂林東側地區ニ向ヒ

（裏ハ）

1806838889

2322

爾後ノ作戦ヲ準備ス

四郎部隊ハ十月三十一日迄ニ關門鐵抗附近ヨリ海洋壩(高田封閉)ノ西

一二軒ノ麻子鹿ニ全縣西南方一五軒ノ瀧陽茅竹市附近ニ兵力ヲ派遣

シ爾後窪林南方地區ニ向ヒ作戦ヲ準備ス

光部隊ハ十月二十九日迄ニ道縣永明間ノ地區ニ進出龍虎關一恭城方

向ヨリ新興園附近ニ對シ爾後ノ作戦ヲ準備ス

六山部隊ハ十月二十八日迄ニ概ネ江華大路錦富川、小溪ノ地區ニ進出

富川一屯六方向ヨリ本樂附近ニ向ヒ爾後ノ作戦ヲ準備ス

健部隊(針部隊)ハ速カニ各一部ヲ全縣ノ龍水、永安關、瀧陽及

興安附近ニ推進スルト共ニ十月三十日迄ニ主力ヲ全縣附近ニ前進ス

「一語不明」二十二時

(終)

軍事機密親展

23238684

8888

山?
間ノ地場ニ進出シ同安墟方向ヨリ平樂ニ向ヒ攻勢ヲ準備ス

(2) 松部隊(歩兵三大隊、砲兵一大隊)ハ二十三日夕行動ヲ起シ二十七日迄ニ白芒營、婆婆坎、竹木橋地區ニ集結シ鐘山、羅岡南方地區ヲ經テ平樂附近ニ向ヒ攻勢ヲ準備ス

(3) 橋部隊(歩兵二大隊、砲兵一中隊、迫二中隊)ハ二十四日夕行動ヲ起シ二十八日夕迄ニ主力ハ牛岩(福利墟北八杆)福利墟、申家灣(北八杆)間ノ地區ニ集結シ爾後ノ攻勢ヲ準備ス

(4) 官部隊(騎兵二中隊歩兵一大隊)ハ概ネ二十七日頃行動ヲ起シ二十八日朝迄ニ大路舖、菜子井(南八杆)ノ地區ニ集結シ爾後ノ行動ヲ準備ス

光部隊ハ概ネ二十九日迄ニ道縣、永明間ノ地區ニ集結ス其ノ前進中ナリ 其ノ先遣隊(歩兵三大隊、砲兵一大隊)ハ二十三日主力ハ逐次瀟水兩岸地區ヲ南進中ニシテ敵ノ一部ハ二十三日夕大平舖(寧遠北西八杆)ニ進出セリ

(第 二)

機密親展

至急電報

昭和一九、二〇、二一
一〇二七、一七〇〇 發
一〇二八、一七五八 提出

旭 部 隊 參 謀 長

參 考 次長、總參謀長、南、隼、徽州、隼推進班
通雷先 統

旭參電第二四九號

軍ハ速カニ荔浦及陽朔附近戰路上ノ要衝ヲ占メ主力ノ桂林及柳州方面ニ於ケル作戰ヲ有利ナラシメンガ爲山及光部隊ニ對シ左記要旨ノ攻勢命令ヲ下達セリ
一 山部隊ハ十月二十八日以降成ルベク速カニ攻勢ヲ起シ光部隊ト鉅應シ當前ノ敵ヲ擊攘シツツ富川一鐘山一同安塘道ニ沿フ地區ヨリ

687

2326

前進シ平樂及荔浦ヲ占領スベシ

山

後柳州方面、状況ニ依リ桂林方面ニ向ヒ作戦ヲ準備スベシ

ニ光部隊ハ十月二十九日以降成ルベク速カニ攻ヲ起シ山部隊ト策

應シ當面ノ敵ヲ擊攘シツツ龍虎關一恭城一陽朔道ニ沿フ地區ヨリ

前進シ恭城及陽朔ヲ占領スベシ

爾後桂林南方地區ニ向ヒ突進ヲ準備スベシ

(終)

皇親本

2327

688

第三課

用

電報極秘

傍受電報

通電先 次長（次官）

旭放送電第一四一號

十月三十一日

一 軍主力ハ逐次「桂林」ヲ包圍シツツアリテ「廣」ハ古賀部隊ヲ以テ北方三軒「官」ハ主力ヲ以テ東側ニ進出シアリ「鹿」ハ三十日夜「大圩」附近ニ於テ渡河西南進中

二 「光」ハ本朝「龍虎關」附近ヨリ攻勢前進ヲ開始セリ

三 「桂林」城直接守備ノ敵ハ依然第三一軍部第一三一師第一七〇

師ノ外第七九軍ノ一部及第一八八師ノ約一營以上ノ部隊ニシテ

其ノ主陣地ハ「北冲」（「桂林」西北二軒）東方「岩山」

「桂林」東端ト「福龍坪」北端「圍背村」ト「七星岩」ト「象

（裏へ）

昭和一九二一、一

一〇三三三三〇發
一一〇一〇九五〇若
十一月一日十三時〇分（電報班受付）

旭 部 隊 參 謀 長

690

0668

2329

鼻山」ノ線ニシテ各山頂ニ「コンクリート」製望樓山頂ニ近ク

鐵條網アリ 陣地補強中（宮報）

「桂林」北部ニハ少クモ砲二、追撃砲四アリ（廢報）

又「七星岩」附近ニ砲四（宮報）アリ

四 第二〇軍部ハ三十日「荔浦」ニアリ

「龍虎關」正面ノ敵ハ新編第二〇師ナルモノヲ如シ

（終）

第 課

日 誌 用

傍受電報

次 長 宛

旭放送第二四二號

十一月一日

十一月二日十一時電報班受付
一九四五年十一月二日十一時電報班受付
一九四五年十一月二日十一時電報班受付

昭和一九、二、三

旭 部 隊 參 謀 長

58

「針」ハ三十一日夜間「家分平圩」(「桂林」西北二四杆)ニ進

出後「岩山圩」(南八杆)ニ向ヘリ

「廣」「古賀」部隊ハ「三民村」(「桂林」北三杆)野溝部隊ハ

吳家村「唐攔村」(「桂林」西北七杆)戰闘司令部ハ

(以下配布済)

(其ノ八ヨリ)

「明」二日「桂林」「柳州」曇、雲高一五〇〇、視程一〇杆、飛行可

能ノ見込ナリ

(終)

2331

692

極秘

傍受電報

次 長 宛

旭放送第一四二號

旭 部 隊 參 謀 長

十一月二日八時五十分(電報班受付)

昭和一九、一一、二



(前項未著其ノ三ヨリ)

「蜂家村」(「桂林」北七軒)ニ進出「田幡」部隊「古賀」中隊後
 方ノ「一語不明」(「山崎」部隊ノ大部ハ「大溶口」以下五語脱)
 「一官」ハ「桂林」東側ニアリ
 「一鹿」ハ三十一日夕「大坪」部隊ヲ以テ「馬面圩」(「桂林」南々
 西「一五軒」附近ノ敵ヲ攻撃中、「海福」部隊ハ「良豐圩」(「東南
 五軒」ヨリ「羅錦圩」(「西西南」一五軒)ニ向ヒ突進中
 「一光」ハ石縦隊ノ先遣隊ヲ以テ本朝「恭城」西北ニ、「山」ハ右
 縦隊第一梯團ヲ以テ三十一日十一時頃「二塘墟」(「平樂」東々
 北「一語不明」一軒)ニ進出セリ
 「一平樂」ニハ第二〇軍陣地ヲ占領シアリ第三七軍第二六軍ハ
 三十一日夜移動シアルモノ如シ
 第七九軍方面ハ不明ナルモノ「桂林」近クニ於テ反抗ヲ企圖シアル
 (以下未著)

陸軍

軍事極秘

特別緊急電報

昭和三十九年三月一日
陸軍省發
二二六三
一三〇〇
二二六三
一三〇〇
長

参考 總長 榮 (漢口) 南 軍

通電先 統

相參電第 三六七號

一軍 敵ノ桂林周邊ニ南集團正面ニ蟻集シ柳州

ノ守備薄弱ナルニ乘ジ一撃ニ之ヲ攻略スルニ夫

シ鹿及山部隊ヲ柳州ニ突進セシメ以相策應シテ之

ヲ攻略スル如ク本三自早朝發令セリ

右決心處置ノ経緯相參電第 三七一號ノ如シ

終

極秘

第三課

至急電報

11:30 發 11:40 受付
40600 著 11:45 提出

昭和一九、一一、四

通電先 次長 支總（南京、漢口）、統、軍、南、軍推進班

旭參電第三四七號

旭 部 隊 參 謀 長

軍へ重砲等ヲ推進シテ周到ナル準備ヲ整へタル後一舉ニ桂林ヲ攻略
 スベク準備中ニシテ十月一日夕ニ於ケル諸部隊ノ態勢左ノ如シ
 一 針支隊ハ八時三十分家分平圩へ桂林西北方二四軒ヲ通過微弱カ
 ル敵ヲ撃破シツツ桂林西南方地區ニ向ヒ前進中
 二 野濬旅團（歩兵四大隊）ヲ以テ三民村南端へ桂林城北側一軒へ東
 西ノ線ニ進出シ攻撃ヲ準備中
 三 野濬旅團ヲ以テ桂林西北方八軒置地端ニ進出シ桂林西側四軒東南
 へ（裏へ）

696

2335

方ニ流ルル二條ノ岩山ヲ攻撃スベク敵情地形ヲ搜索中ナリ

(2) 敵ノ岩山及市街ヲ利用シ堅固ニ陣地ヲ構築シアリテ抵抗頑強ナリ
市外ハ部落等ヲ焼却シテ射界ヲ清掃シアリ

宮部隊ハ

(1) 主力ヲ以テ竹橋頭(桂林東四軒)南北ノ線ニ於テ攻撃準備中ナリ

(2) 敵ハ桂林北端ヨリ七星岩東端ヲ經テ象鼻山(桂林東南端)ニ互リ

堅固ニ陣地ヲ占領セルガ如シ

廣部隊

(1) 歩兵第百十六聯隊ヲ以テ三十一日夕以來馬面墟(桂林南南西一六

軒)ニ在ル敵ヲ攻撃中

(2) 歩兵第百四聯隊ヲ以テ一日未明良豐墟(桂林南二〇軒)ヲ占領引

續キ桂林柳州街道ヲ遮斷スベク突進中

桂林親征

(3) 司令部ハ一日五時大橋村（長豊壠東東北七軒）ヲ通過西進セリ

光部隊ハ三十一日龍虎關附近ヲ出發シ先遣隊（歩兵二百二十七師

隊基幹）ヲ以テ一部ノ敵ヲ擊碎シツツ前進シ一日朝金鷄坪（恭城

西西南八軒）ニ進出セリ

主力ハ龍虎關南方及東方地區ニ在リト判断セララル

山西部隊

(1) 歩兵第三十四師隊ヲ以テ二塘（扁祖山東一〇軒）ニ進出シ當面ノ

敵ヲ攻撃中ナリ司令部ハ一日朝同安壠（二塘東南方二〇軒）ニ

進セリ

(2) 歩兵第六師隊ハ同安壠南方地區、歩兵第六十八師隊ハ同安壠東方

山地ヲ西進中

(3) 同安壠東方山地ハ極メテ峻阻ニシテ行進遲滞シアリ

（裏へ）

戦軍第三師隊主力ハ河川ノ氾濫ヲ強行撻蕩シ桂林北側地區ニ進出

セリ

重砲部隊（十加、十五榴各二大隊、十五加一大隊）ハ未ダ興安桂

一大浴江口（蠟川北四〇浬）地區ニ在リ

戦場一般ニ數日ノ豪雨ノ爲出水著シク作戦行動ニ大ナル支障ヲ來

シアリ、特ニ補給隊及ノ橋梁ノ大部流出シ軍需品ノ輸送ニ至大ノ

影響ヲ及ボセリ

西師八軍一師

（以下は非常に暗く、読み取れない）



傍受電報

次長 宛

旭放送第一四五號 十月四日

旭 部 隊 参 謀 長

昭和一九、一一、五

一四二三五〇發
一〇三三〇受付
一〇四〇〇提出
十一月五日八時三十分 電報受付

一 針、廣、官ノ各隊ハ既報ノ如ク進退準備中

二 鹿ハ敵ヲ攻撃中ニシテ三日夕海福部隊ヲ以テ「永福隊」東々南八軒附近ニ於テ約一箇師ノ敵ヲ攻撃中

三 光ハ左縦隊ヲ以テ二日「恭城」ヲ三日先遣隊ヲ以テ「陽朔」ヲ攻陥セリ

四 山ハ新編第二〇師長ノ他ノ抵抗ヲ擊退三日九時「荔滄」ヲ攻陥引續キ其ノ西北ノ敵ヲ攻撃中

五 「桂林」ニハ七九軍（二箇師實力二箇團）在リ花岩山地帯ノ防備ヲ擔任シアルモノヲ知シ

六 二〇軍軍部ハ三日「修仁」ニ在リ

七 二六軍軍部ハ三日「柳州」ニ向ヘリ

八 第四六軍軍部ハ四日夕「來賓」西北一二軒ニ在リ

九 明日「桂林」「柳州」北東ノ風三米、曇小雨、雲高四〇〇、視程二〇軒ノ見込

(終)



至急電報

昭和一九、一一、五
一、一、一〇〇〇號
一、一、一〇〇〇受付
一、一、一〇〇〇提出

旭 部 隊 參 謀 長

參 考 次長、總參謀長（漢口）、南、隼

通電先 統

旭電第三七二號（電註、一部翻譯不能再電要求中ナルモ取敢ズ配布ス）

一車ハ逐次報告セル如ク概ネ桂林城攻圍「三語不明」目的ヲ以テ

重砲、戰車等進出ヲ促進シ攻撃ヲ準備中ニシテ攻撃ノ開始ハ七

乃至八日ト豫定シアリ

ニ桂林城内ノ敵ハ目々ニ乃至三箇師ト判斷シアルモ俘虜報及桂林

城ニ隣接セル兵團ノ感シコリ解釋スレバ敵ノ兵力ハ更ニ劣勢ナ

ル公算モアリ 其ノ抵抗ハ相當ニ頑強ナルベキモ意外ノ準備ヲ

以テ攻撃ヲ強行スレバ短時日ヲ以テ攻略可能ナルモノト判斷

シアリ

ノ（裏へ）

701

2340

桂林周邊ノ敵ハ第七九軍及第九三軍ヲ主體トスルモ其ノ戦力木ナラズ

前者ハ目下義寧方面ニアリト判断セラレ之ニ對シテハ支隊ヲ桂林西方地區ニ配置シテ軍ノ側背ヲ掩護シアリ

後者ハ鹿部隊ノ桂林南方地區進出ニ對シ相當頑強ニ抵抗セルヲ以テ鹿部隊ハ之ヲ撃破シテ逐次ニ壓迫十一月二日朝第一線ヲ以テ永福附近ニ進出セリ

平樂平地ニハ三三師アルモ何レモ劣弱ニシテ山及光部隊ニ依リ迅速ニ撃破セラルルモノト判断シアリ

七民ノ言ニ依レバ柳州局ノ敵ハ目下南集臨前面ニ蟄集シアリ
柳州ニハ第六二軍ノ微弱ナルニ簡師アルノミニシテ其ノ守備ハ
目下薄弱ナルモノト判断セラレ

四以上ノ状況ニ於テ期セズシテ柳州ヲ睥睨スルノ態勢ヲ占メタル
鹿部隊及本來此ノ方面ニ指向ヲ豫期シアリシ山部隊ヲ以テ一舉
柳州ニ突進セシメ之ヲ攻略セシムル事ハ最モ好機ニ我ズルモノ
ニシテ敵ノ慮ヲ衝キ且南集團作戰ヲ容易ナラシメ以テ迅速ニ作

戰目的ヲ達成スル所以ナリトノ判断ニ到達スルニ到レリ
五軍ノ新作戦及前述ノ理由ニ依リ桂林城ノ攻略ニ支障ヲ來サズ
（電註、以下一通譯不能）

六以上軍ノ作戦指導ハ統集團及軍作戦計畫ト相當ニ異ルガ如キモ
之ガ作戦ノ進展ニ伴ヒ生起セル好機ヲ捕捉シ後方ノ如何ニ拘ラ
ズ目的ヲ達成セントスル純一ナル考ニ出ルモノナリ
而シテ後メ報告シタル後處置スル事能ハザリシハ本作戦指導ノ
判断ガ鹿部隊ノ永福附近進出ヲ模範トシテ生ジタルモノニシテ
猶豫セバ鹿部隊ハ逐次桂林城方面ニ逆行シ戦機ヲ失スル事ヲ虞
レタルニ依ル

（終）

第三課

勸告

傍受電報

次長宛

旭放送第一四六號

十一月六日

旭部隊參謀長

中

昭和一九四一、一一、七

十一月七日十一時三十分(電報班受付)

六二三四〇發 一〇一〇〇受付

七〇九三〇著 一〇一〇〇提出

一 旭部隊長ハ六日朝「桂林」北創新職團司令部ニ進出セリ

二 「針」ハ五日朝一部ヲ以テ隘口(「桂林」中西南六軒)ニ進出ス

三 「廣」ハ「矮平山」及「北冲」(桂林西北二、五軒)附近ノ敵ヲ

攻撃中ナリ

四 「官」ハ「桂林」東北一、六軒ノ岩山ヲ完全ニ奪取シ及「七星岩」(裏)

705

2344

ノ約二分ノ一ヲ奪取引續キ攻環中

五「[？]」ノ先遣隊ハ五日夕「桂林」兩方へ進出六日「百石山」及水

行場附近「戸田」部隊ノ一部ト交代ス

六「[？]」ハ五日夕「大坪」部隊ヲ以テ「理定屯」(柳州北北東五五

紆)ニ進出「海福」部隊ヲ以テ「古石本屯」(「理定屯」東東北

「五紆」附近ノ以テ攻環中

七「桂林」城ノ敵兵力變化ヲ認メズ「老人山」(或ハ「獨秀峯」)

ニ重砲(一五榴或ハ一〇榴)三アリテ射撃中

八第二〇軍第四師第一七五師新編第一九師ハ五日移動中

九二四集團軍ハ「剿匪」ヲ擔任ス

(終)

秘
親
展

軍事極秘

第二課

至急電報

昭和一九、一一、七

一、六二一三〇發
一、六一九〇五受付
一、七一六二五提出

旭 部 隊 參 謀 長

通電先 次長、統、總參謀長、南、隼、櫻推進班

旭參電第四〇九號

十一月四日夕迄ノ戦況

一、針、廣、官各部隊ハ一部ノ敵ヲ擊潰シツツ攻撃準備位置ヲ推進中

官部隊ハ四日夜七星岩ノ一角ヲ占領セリ

光、二日十時恭城ヲ、三日十時「一語不明」(電註)八幡殿方ヲ

シ照會中ニテ渡河中ニシテ先遣隊(歩兵四大隊、砲兵一大隊半)

80707 2346

ヲ以テ不日、手カヲ以テ九日頃桂林南側地區ニ進出ノ豫定ナリ
陽朔ニ只歩兵一大隊ヲ發遣シ軍ノ側背ヲ掩護セシム
鹿山南部隊ハ柳州ニ向ヒ敵ヲ追撃中ニシテ鹿ハ永福東東南八軒
附近ニ於テ約一箇師ノ敵ヲ擊退シ四日其ノ南方地區へ進出ス
山ハ三日兎時荔浦ヲ攻略シ引續キ同地西北方ノ敵陣地ヲ攻撃中ナリ

(終)

桂林南側

秘
親
展

2347 0708



極秘

傍受電報

次長宛
旭放送第一四七號

昭和一九一八
十一月八日十三時十分(電報班受付)

旭部隊參謀長

一 針小六日夕一部ヲ以テ「三ツン村」(「桂林」西西南方五軒)ヲ奪取セリ

又「平洞」方面ニ派遣セル一部ハ五日頃同地ヲ奪取セリ

二 廣ハ古賀部隊ヲ以テ「北華塚」及其ノ東方陣地ヲ奪取「橋頭」ヲ攻撃中

野總部隊ヲ以テ「青龍山」ヲ掃蕩中

三 宮ハ「國背村」西方「岩山」ヲ奪取「月牙山」ヲ攻撃中

四 鹿ハ六日夕「中渡」(「柳州」北方四五軒)「黃免街」ノ線ニ進出ス

709

2348

五山ハ「修仁」附近ニ於テ約二箇師ノ敵ヲ擊攘シ六日夕其ノ西南

方面附近ニ進出セリ

六「一語不明」報ニ依レバ第七九軍軍部及第一九四師（兵力三千）

ハ「山口壙」ハ「桂林」西南方五五紮（兵力）第九八師（兵力）

千三百）ハ「桂林」ニ、暫編第六師ハ「龍勝」ニ在リ

本第一六集團軍、第九三軍、第二〇軍、第三七軍、第四六軍各軍

新編第一九師、第四四師、第一八八師、第一七五師、第一三五

師ハ依然移動中

八明八日「桂林」方面南東（後北西）ノ風ニ米、爾後曇、曇高

〇〇一〇〇〇米、視程二一〇軒ヲ見込ナリ

日誌用

第二課

緊急電報

昭和一九、一一、八
七二〇〇發
一八〇六四〇受付
六〇五五提出

旭部隊參謀長

參考 次長、準、榮、南、山、鹿
通電先 統

旭參電第一四號

一 山ハ六日八時岔路口（修仁西々南一六軒）附近ノ敵ヲ攻撃中、
主力ハ修仁攻撃ヲ準備シ其ノ西側地區ヲ急進中

二 鹿ハ六日夕其ノ先頭ヲ以テ概ネ中渡（柳州北六〇軒）―黄免街（中
渡東二〇軒）ノ線ヲ追撃中、其ノ主力ハ七日十二時黄免街北三

軒ヲ達ス

三 南集團ノ戦況承知致シ度

（終）

通信電報

昭和一九一九 兵總復舊
六一〇二〇號
七一三三〇受
七〇二四〇着
八一六〇〇點

旭全縣參電第二號

兵站總監部參謀長

旭部隊參謀長

「卜」號作戰後方旬報（十月下旬）

輸送力消耗並ニ輸送實施狀況（平均日量）

(1) 自動車 易俗河、衡山間雪中（五〇應）

衡山、衡陽間 七中（五〇應）

衡陽、祁陽間 九中（一〇〇應）

祁陽、永州間 七中（六〇應）

零陵、全縣間 七中（五五應）

輸送力ノ低下ハ連日ノ降雨ニ依リ橋梁流失路面泥濘化セシムル爲ナリ

(2) 鐵道

天下棚、衡陽以西ニ一聯條ヲ設置シ主力ヲ以テ衡陽白地市間ヲ輕

列車ノ運行シ得ル如ク補修中

交通

十月下旬初メ以來ノ長雨増水ニ依リ各河川ノ橋梁流失シ交通一時杜

絶シタルモ各部隊ノ努力ニ依リ迅速ニ交通治安復舊シ緊急品ノ輸送
入馬交通等ニ支障ナカラシメタリ
三、衡陽、永州、全縣地區ニ於ケル軍需品集積狀況左ノ如シ

(1) 衡陽（十月二十八日現在）

彈藥二〇九觔、兵器器材一〇八觔、自動車燃料一五觔、戰車燃料
六觔、部品三六觔、航空燃彈約一五〇觔、糧秣二七五觔、被服物
品六〇觔、衛生材料八七觔、獸醫資材一〇三觔

計 一〇四九觔

(2) 零陵（祁陽）（十月三十一日現在）

彈藥一四九觔、兵器器材一五觔（四五觔）、自動車燃料二二觔（
二〇觔）、戰車燃料一四觔（四觔）、航空燃料二二四觔（二〇觔）
糧秣二九觔（二〇觔）、被服物品三一觔（二五觔）、衛生材料三
七觔（七觔）、獸醫資材三〇觔

計 四五七觔（一四一觔）

(8) 全縣 (十月三十一日現在)

彈藥二五一應、兵器器材四應、自動車燃料一四應、戰車燃料二二
應、糧秣一七五應、被服物品六七應、衛生材料二三應、獸醫資材
五九應

計 六一五應

(終)

通電先 兵站總監、支那總軍、統

配布先

第二課、第十課、軍事課、野兵長、野航兵長、野經長、燃
料課、野衛長、獸醫課

日誌用

第三

傍受電報

八二三四發
九〇九四〇著

昭和一九二〇
十一月九日一四一〇電報班受付

2354

通電先 次長(次官)

旭放送電第一四八號

旭 部 隊 參 謀 長

十一月八日

一「廣」野部部隊ハ「青龍山」ヲ掃蕩其ノ東南地區及傍平山

ノ線ニ北冲「張家冲」ノ線ニ於テ攻撃準備中

二「官」ハ一部ヲ以テ昨夜來「月牙山」ヲ攻撃中ニシテ八日二十

時頃其ノ大部ヲ攻略セリ

三「麗」ハ七日夕一部ヲ以テ「京泉嶺」(「柳州」北六村)ニ進出

主力ヲ以テ「長樂嶺」並ニ「黃免街」ニ於テ渡河準備中

四「山」ハ八日朝「橋」部隊ノ一部ヲ以テ「白沙嶺」(柳州)東

京南三四村)「倉」部隊ヲ以テ「維谷」ニ進出「松」部隊ハ「柳

(秘)

716

板州「一」麻寮城「西南八軒」ヲ「三語不明」

其「一軍」部隊ハ十七時三十分頃一部ヲ以テ「桂林」城「獨秀峯」

附近ヲ爆撃彈藥庫或ハ燃料庫ニ命中セルモノノ如ク夜ニ入ルモ

炎上シアリ

六 第二六軍ハ三日「維容」ヲ經テ「柳州」方面ニ後退セリ

又第四戰區長官ハ七日第一線ヨリ撤退セルモノノ如シ

七 第二〇軍ノ殘餘ハ「修仁」附近ヨリ南方ヘ脱逸セルモノノ如シ

八 明九日「桂林」附近曇晴間アリ、北京ノ風ニ米雲高七〇〇一

〇〇〇視程一〇一一五軒「柳州」附近曇北京ノ風一米雲高一〇

〇〇一一五〇〇視程一五軒共ニ飛行可能ノ見込

(終)

秘親展

2355

717